

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス共育コラム④

高校総体 筑豊地区予選を観戦して・・・ よきチームとの出会い、つながりに生きる



高校総体の筑豊地区予選が、14日（土）15日（日）、鞍手高校の体育館で行われました。現在、直方クラブのOB 2人が鞍手高校の女子3年生で、チームの中心選手の一角を担っています。大会の情報が入り、応援に行きました。結果は、準決勝を勝って男女とも鞍手高校の県大会出場が決まりました。筑豊地区からは男女各2チームに7月の県大会への出場権が与えられるそうで、決勝は行われませんでした。

私が観戦したのは女子ですが、いいチームでした。その意味は、個々の力というより、選手層の厚さと各選手の適材適所で起用、選手個々人が主体的に試合にかかわっていること、そして互いへの信頼が見てとれたことです。私が見たのは準決勝の試合ですが、流れが行ったり来たりで、最後に流れが来た方が勝つだろうなと思いながら見ていました。最後4クォーター途中まで、1・2ゴール差の接戦でした。中盤に鞍手に流れが来て10点差あいたところから、その差をキープし、逃げ切って勝ちました。競っているときも含めて、一人ひとりがとてもいい表情で臨んでいました。ミスもありましたし、個々の実力だけをみれば不十分さもありましたが、チームメートどうしが、うまく補い合っていました。

直方クラブのOBの二人のプレーも、久しぶりに見ましたが、身体が大きくなっている分、パワーがつきプレーが安定しスキルも向上していました。小学生の時のプレーの特徴やクセは、そのまま見られましたが、それでも、このチームの中心選手の一人としてプレーできているのは、自分の役割をよく自覚していて、そのプレーに専念していたことだと思いました。それを可能にするチームに所属できたことが、今日の体験を生み出していたと思います。互いを信頼できる素晴らしいなかまと指導者、いいチームとの出会いに感謝ですね。

昨今、勝つことを第一義とした指導者主体のクラブチームが多くなっているなか、高校生部活動の理想の姿を見たような気がします。県大会出場が決まっていますが、どんな結果であれ、自分たちのめざしたチームスタイルを大事にして最後までやり抜いてほしいと思います。どんなチームも最後は負けて終わります。勝って終われるのは1チームだけ。その勝ちが将来につながるかどうかは別物です。どこで勝とうが負けようが、そこに至るまでのプロセスが、どれだけ価値あるものであったかどうか、そのことの方が、よほどその子の将来に意味をもつものになります。

鞍手高校には、県大会でもがんばってもらいたいと思います。同時に、直方クラブの子どもたちにも、日々の活動の積み上げが意義あるものであるように、良きなかまとの出会いの場となるように、かかわっていきたいと思います。まずは、今週末の新人交歓大会が、次につながる意義ある大会になるよう、子どもたちとがんばりたいと思います。

